

特集

納豆の輸出

令和5年10月20日
東京税関

★2022年は輸出金額が過去最大！

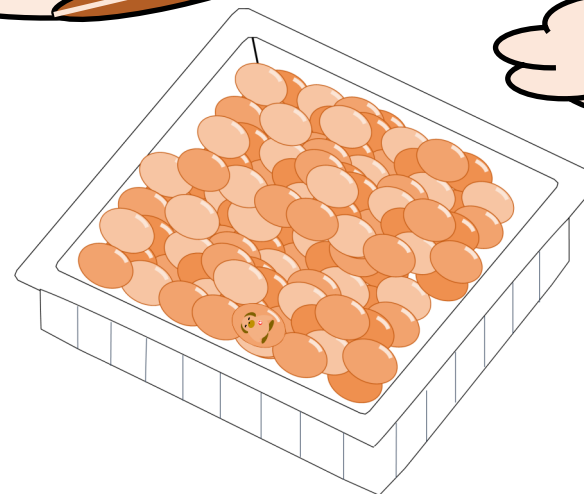
★米国と中国で輸出トップを争う！

★東京港が輸出数量、輸出金額
ともに全国シェアトップ！

はじめに

納豆、最近食べていますか？大好きで「毎日欠かせないよ！」なんて人もいれば、匂いや見た目がダメだから食べないという人もいますよね。そんな納豆ですが、様々な機能性があることが知られています。海外においても健康志向の高まりから注目され、納豆を食べる人が増えています。

そこで海外で受け入れられつつある納豆の輸出について調べてみたところ、年々増加傾向にあり、2022年は東京税関が輸出数量・金額のいずれにおいても全国シェアでトップ（輸出数量約968トン（30.8%）、輸出金額約559百万円（31.6%））となっていたため、今回は納豆にスポットライトを当て、特集として取り上げることにしました。

ボクがどこかに隠れているワン！
探してネバ～！！

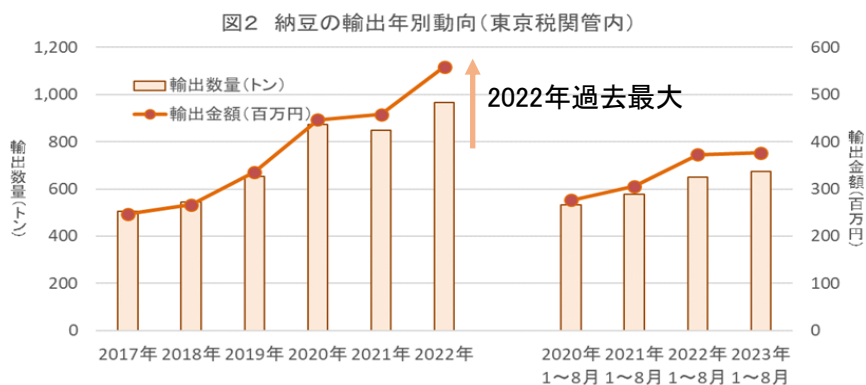
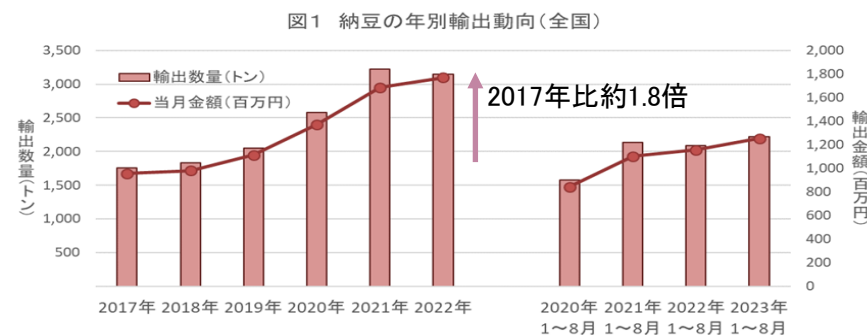
本特集の「納豆」は、輸出統計品目番号 2008.19-010 に分類されるものについてまとめたものです。本特集の輸出数量及び金額について、2021年以前は確定値、2022年は確々報値、2023年1～8月は確報値です。

年別輸出動向

納豆が輸出統計品目番号に新設された2017年から年別に見る（図1：全国、図2：東京税関管内）と、2017年から2022年の6年間で全国の輸出数量及び輸出金額のいずれにおいても約1.8倍に増加していることが分かりました。東京税関管内においても数量と金額が過去最大を示しており、納豆の輸出が右肩上がりの傾向となっていることが分かります。

また1月から8月の累計した数値を年別に見る（図1右側）と年々増加していることが分かります。このペースで輸出が続けば2023年は輸出数量・輸出金額ともに過去最大となりそうな勢いです。

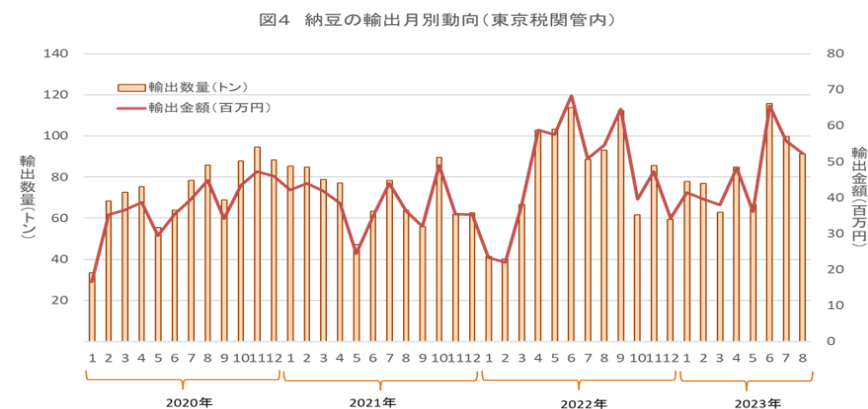
輸出数量や金額が増加した要因について、全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、食と健康志向のつながりが海外で強まってきているため、それが増加に結び付いているのではないかとのことでした。



月別輸出動向

納豆の輸出数量と金額を月別に見る（図3：全国、図4：東京税関管内）と、増減の特徴的な動きは認められませんでした。この理由について全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、納豆は日本国内では冷蔵で流通しますが、輸出の際は、冷凍で輸送されており、季節を問わず日常的に消費される食品であるため、月別で特徴的な動きがないのではとのことでした。

ただしグラフの右側に進むにつれてピークが高くなっていることから輸出が徐々に伸びてきていることが分かります。



国(地域)別動向(全国)

2022年の全国における納豆の輸出数量を仕向国別に見る(図5)と、1位が中国、2位が米国となっていますが、輸出金額で見ると(図6)と順位が入れ替わり、1位が米国、2位が中国となり、この2か国で拮抗していることがわかります。

特に納豆を食べるイメージの無い米国への輸出量が多いのが特徴的であり、理由を全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、米国では在留邦人及び日系法人に関わる人の需要が高いとのことでした。また米国向けの数量割合に対して金額割合が多くなるのは、輸送コストなどから単価が高くなるため数量に対し金額が多くなるのではないかとのことでした。

図5 国・地域別輸出数量割合(全国・2022年)

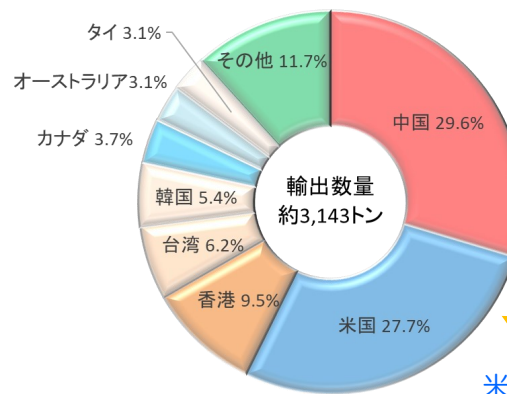
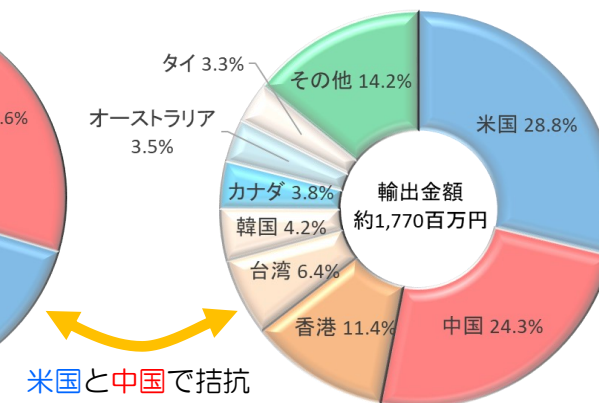


図6 国・地域別輸出金額割合(全国・2022年)



米国と中国で拮抗

税関別・港別動向(全国)

図7 税関別輸出数量割合(全国・2022年)

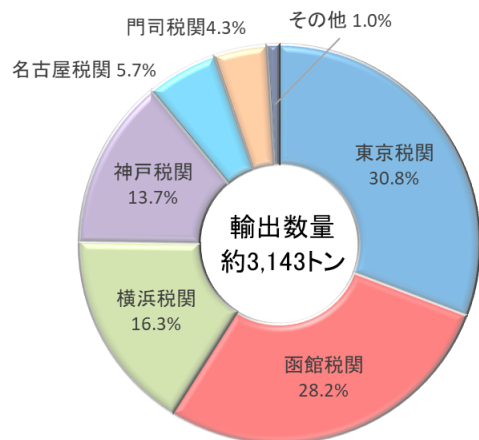
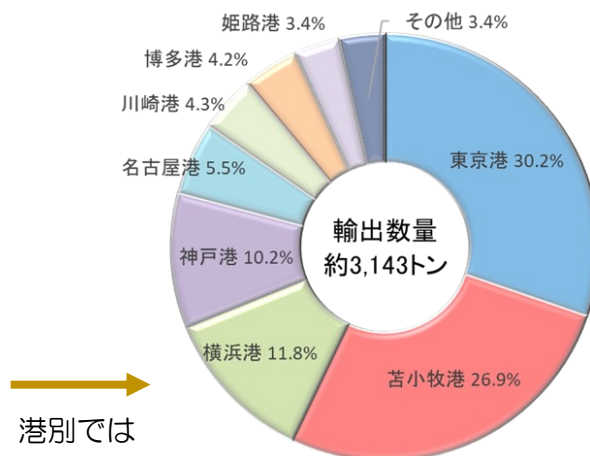


図8 港別輸出数量割合(全国・2022年)



港別では

2022年の納豆の輸出数量を税関別に見ると、最も輸出数量が多かったのは東京税関で約968トン(30.8%)、次が函館税関で約886トン(28.2%)でした。輸出数量で見ると東京税関と函館税関で拮抗していることがわかります。

ちなみに輸出数量を港別で見ると、最も多かったのは東京港で約951トン(30.2%)、以下、苫小牧港(函館税関)の約845トン(26.9%)、横浜港の約370トン(11.8%)と続きます。

納豆の生産地として有名な茨城県がある関東エリアからの輸出(東京税関・横浜税関)が多いことに加え、苫小牧港からの輸出も多いことが注目されます。

国(地域)別動向(東京税関管内)

全国の国(地域)別動向(3ページ図5、6)では主に中国と米国が仕向先となっていました。2022年東京税関管内から輸出された納豆の仕向先を調べたところ(図9:輸出数量、図10:輸出金額)、東京税関管内からは米国向けが50%を超えています。中国向けは無いことが分かりました。

東京税関管内(特に東京港)から中国向け輸出が無いことについて全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、中国では北海道で製造された納豆(いわゆる北海道ブランド)が好まれているため、東京港からの輸出は無いのではないかとのことでした。

図9 国・地域別輸出数量(東京税関管内・2022年)

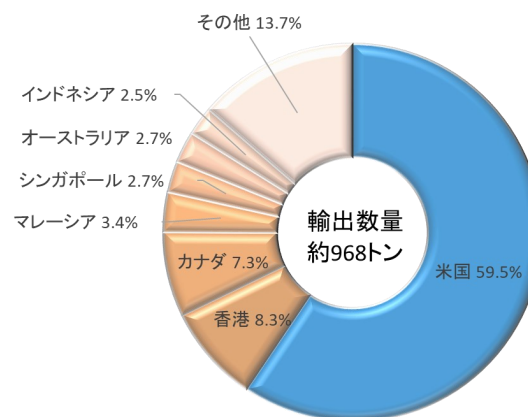
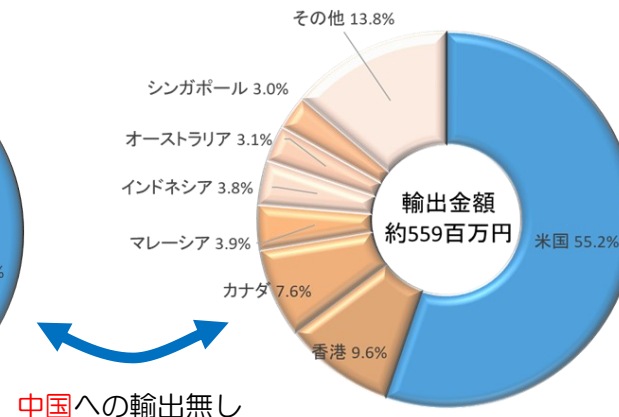


図10 国・地域別輸出金額(東京税関管内・2022年)



中国への輸出無し

国(地域)別動向(函館税関管内)

図11 国地域別輸出数量(函館税関管内・2022年)

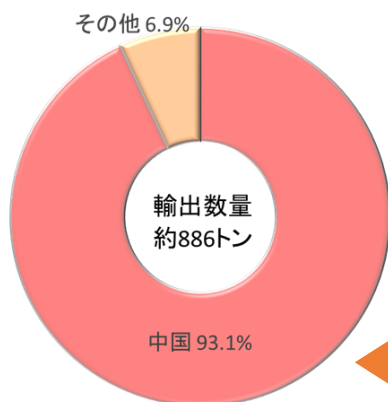
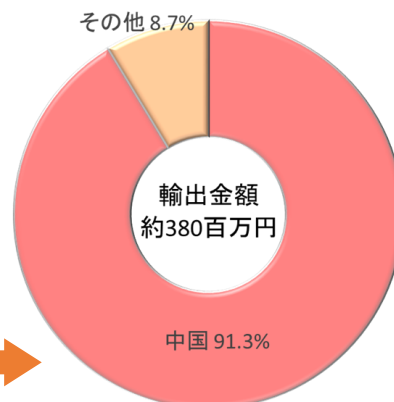


図12 国地域別輸出金額(函館税関管内・2022年)



中国向けが大半

税関別の輸出数量で第2位であった函館税関管内からの仕向先を輸出数量(図11)及び輸出金額(図12)で見ると、中国向けが大半であることが分かりました。

全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、苫小牧港から中国向け輸出が多く行われている理由は、国産大豆の一大生産地である北海道に所在するメーカーであれば、原材料である大豆の国内輸送費が抑えられ輸出用納豆の製造コストを圧縮できること、また北海道ブランドに根強い人気があるためではないかとのことでした。

これらを踏まえると、3ページで示したように米国向けと中国向けで輸出が拮抗しているのは、米国は在留邦人等が多いことから納豆の需要が高く、中国は北海道ブランドに人気があり、北海道で製造した納豆の需要が高いためではないかと思われます。

（豆 知識1）海外での納豆の食され方

日本ではご飯に納豆をのせて食べる人が多いと思います。ところが海外においては食べ方が異なっているようです。

全国納豆協同組合連合会に聞いたところご飯の上に納豆をのせて食べているのは日本独特の食文化だということです。

では、海外ではどのように食されているのかというと東南アジアではスープなど汁物の具材として使われることが多く、米国では、ご飯にのせるどころかタレやカラシさえも使わずそのまま食べたり、葉物野菜と一緒に食べることが多いとのことでした。また海外では健康志向から納豆を食べる人が増えてはいるものの国内の日本人にも多くいるように、やはりねばりと匂いに抵抗がある人が圧倒的に多いようです。

（豆 知識2）納豆の克服法について

ねばりと匂いが苦手な人のために克服法を全国納豆協同組合連合会に聞きました。

まずねばりですが、オクラやめかぶなど、ねばる食品と一緒にすることで何のねばりかが分からなくなるため、納豆のねばりが克服できる可能性があるとのことでした。

次に匂いについてですが、匂いの強いものとあわせて食べれば納豆の匂いがマスキングされるとのこと。例えばカラシやネギなどの薬味とあわせたり、キムチや野沢菜やぬか漬けなどの発酵食品である漬物類と一緒にすると匂いが軽減されるようです。また匂いが強いということでカレーとも合うので試してみてもほしいとのことでした。

また納豆は意外と乳製品とも相性が良いらしく、特におすすめなのはチーズが合うとのことでした。乳製品は匂いを軽減する効果が期待できるので、納豆を克服できる可能性があるとのことでした。

（豆 知識3）パックの驚きの役目

普段スーパー等で見かける納豆は、カップや藁（わら）などに入れられて販売されるモノもありますが、大半は発泡スチロールでできた容器（パック）ではないでしょうか。

この納豆のパックについて全国納豆協同組合連合会に聞いてみました。

納豆の製造工程ですが、まず大豆を洗浄し水に浸し十分に水を吸わせた後に蒸しあげます。蒸しあげた熱々の大豆に納豆菌を噴霧して容器に入れたのち40℃前後の部屋で発酵させることで納豆となります。ちなみに全国納豆協同組合連合会によると延々と発酵させるわけではなく、冷蔵状態にして納豆菌による発酵を止めます。その状態を維持し、納豆を熟成させる必要があります。

発泡スチロールでできた容器は熱の効果のことがよく考えられており、発酵ムラを防ぐために容器の底にミゾがつけられているほか、熱がうまく逃げるようにフタには小さな穴が空いています。全国納豆協同組合連合会によると、これらは全て発酵や熟成の際にうまく納豆が作られるように計算されたものだそうです。また食べるときに邪魔だと感じる人も多いフィルムですが、実は乾燥防止のためにひと役買っているそうです。

（豆 知識4）あのシャリシャリは何？→アミノ酸の結晶

保存状況が悪いとどうなるのかについて全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、販売されるまでは冷蔵（5℃以下）で保存されるのですが、冷蔵状態が保たれないと納豆菌は、また発酵を進めてしまい大豆のたんぱく質を分解します。分解されたたんぱく質は次第にアミノ酸となり結晶化します。

結晶化したアミノ酸は「チロシン」です。「チロシン」はアミノ酸の一種で食べても害はないのですが、発生すると食感がシャリシャリとします。また過発酵が起こると、糸引きが悪くなり、味に苦みが生じます。そのため、納豆は要冷蔵であり、賞味期限内に食べるのが理想的なのです。

〔豆〕知識5) 納豆パッケージの粒サイズについて

よく納豆を購入する際にパッケージに「小粒」や「大粒」などのサイズを見て、どのサイズのものを購入するか悩むことがあると思います。

全国納豆協同組合連合会に聞いたところ以下のようになるとのことでした。原料の乾燥大豆の粒径をもとに納豆組合の自主基準で決まっているそうです。

乾燥大豆の粒径による納豆のサイズ表示	
極小粒	5.8mm未満の大豆が70%以上使用されている
小粒	6.4mm未満の大豆が70%以上使用されている
中粒	6.4mm以上、7.3mm未満の大豆が70%以上使用されている
大粒	7.3mm以上の大豆が70%以上使用されている
極大粒	8.3mm以上の大豆が70%以上使用されている

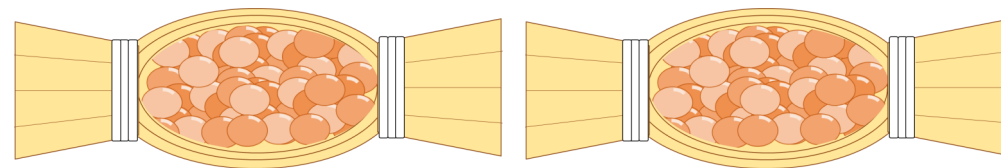
〔豆〕知識6) 1月10日は糸引き納豆の日

納豆には記念日があり語呂合わせで7月10日を「納豆の日」として全国納豆協同組合連合会で制定していますが、実はもう一つ記念日を制定していて「糸引き納豆の日」というものがあります。ちなみに「糸引き納豆の日」は1月10日とのことでした。

名前の由来は糸（い「1」・と「10」）からだそうです。

今でこそ一年中食べることのできる納豆ですが、古くは越冬のためのたんぱく源として重宝されていました。大豆の収穫時期は秋であり、その年取れた新穀で作られる納豆のシーズン始まりが冬場なのです。そのため冬に作られることが多く、納豆は冬の季語としても親しまれています。

全国納豆協同組合連合会に聞いたところ、冬場の「糸引き納豆の日（1月10日）」の認知度はまだあまり高くはないとのことですが、インターネット（X（旧Twitter））で「N-1グランプリ」という納豆に合う最強の相方を決定する投票制のキャンペーンを展開する予定であり、糸引き納豆の日にも注目していただきたいとのことでした。



終わりに

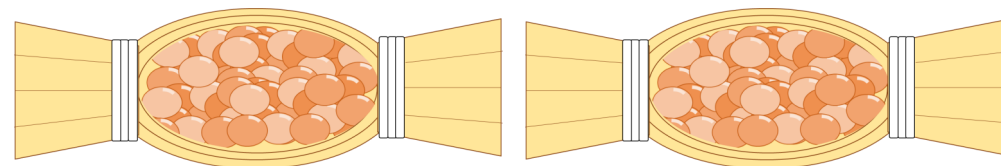
日本において納豆は、古くは平安時代には「納豆」という言葉が存在していたように大変歴史ある食べ物です。しかし納豆の輸出という面では2017年に輸出統計品目番号が新設されて6年と税関での貿易統計上の歴史は浅いです。ただ、この6年の間でも輸出数量・金額のいずれにおいても右肩上がりとなっており、今後の輸出動向も注目されるところです。

ところで納豆は人それぞれ食べ方に好みがあり、混ぜ方ひとつとってもこだわりもありますが、全国納豆協同組合連合会では、美味しく食べてもらえれば好きなように食べていただきたいとのことでした。

納豆には大豆由来の機能性物質（イソフラボン、食物繊維等）や納豆になる際にできる機能性物質（ビタミン類、納豆菌等）など様々な機能性物質を含んでいます。（出典：全国納豆協同組合連合会ホームページ）

全国納豆協同組合連合会では一部が腸まで届く菌である納豆菌が作った納豆を特に整腸作用という面でぜひ食べてもらいたいとのことでした。

冬の季語で越冬のたんぱく源としても親しまれてきた納豆。冬場は風邪等が流行る時期や受験シーズンとなりますが、機能性物質が豊富に含まれる納豆を今のうちから食べて納豆のような粘り強さを手に入れましょう！



(資料編)

年別輸出数量・金額の推移(2017年-2022年)(全国)

年	輸出数量(KG)	当月金額(千円)	
		前年比	前年比
2017年(新設)	1,751,620	—	956,574
2018年	1,827,374	104.3%	981,765
2019年	2,045,026	111.9%	1,114,157
2020年	2,575,139	125.9%	1,371,247
2021年	3,227,343	125.3%	1,685,216
2022年	3,143,289	97.4%	1,770,166
2020年 1~8月	1,573,673	114.0%	843,683
2021年 1~8月	2,139,276	135.9%	1,102,989
2022年 1~8月	2,087,952	97.6%	1,155,621
2023年 1~8月	2,223,902	106.5%	1,252,552

年別輸出数量・金額の推移(2017年-2022年)(東京税関管内)

年	輸出数量(KG)	当月金額(千円)	
		前年比	前年比
2017年(新設)	505,002	—	246,896
2018年	545,046	107.9%	266,908
2019年	652,576	119.7%	335,886
2020年	872,513	133.7%	446,752
2021年	847,952	97.2%	457,549
2022年	967,697	114.1%	558,869
2020年 1~8月	533,107	125.0%	276,196
2021年 1~8月	578,255	108.5%	305,810
2022年 1~8月	649,292	112.3%	373,157
2023年 1~8月	675,594	104.1%	376,496

月別輸出数量・金額(2020年1月-2023年8月)(全国)

年月	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)	年月	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
2020年 1月	108,037	60,167	2022年 1月	158,651	84,034
2月	164,405	89,480	2月	204,092	110,180
3月	199,789	104,309	3月	277,357	150,782
4月	212,516	113,316	4月	253,965	148,073
5月	199,032	106,899	5月	288,148	157,305
6月	202,284	108,819	6月	337,285	184,147
7月	234,356	125,799	7月	319,243	174,396
8月	253,254	134,894	8月	249,211	146,704
9月	223,163	116,645	9月	316,113	195,749
10月	257,361	137,040	10月	244,959	146,019
11月	261,537	136,410	11月	238,010	132,895
12月	259,405	137,469	12月	256,255	139,882
2021年 1月	229,161	119,805	2023年 1月	180,132	97,342
2月	214,249	119,649	2月	246,762	126,523
3月	219,457	119,385	3月	245,601	141,467
4月	286,625	143,017	4月	325,878	181,972
5月	231,368	114,454	5月	264,117	145,453
6月	326,846	163,421	6月	326,695	190,574
7月	285,494	150,318	7月	332,893	194,539
8月	346,076	172,940	8月	301,824	174,682
9月	240,866	127,841			
10月	281,992	154,376			
11月	280,005	147,975			
12月	285,204	152,035			

月別輸出数量・金額(2020年1月-2023年8月)(東京税関管内)

年月	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)	年月	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
2020年 1月	33,484	16,612	2022年 1月	41,368	23,303
2月	68,408	35,293	2月	40,083	22,036
3月	72,531	36,505	3月	66,670	37,890
4月	75,385	38,671	4月	102,732	58,723
5月	55,286	29,372	5月	103,167	57,481
6月	63,788	35,350	6月	113,652	68,287
7月	78,380	39,528	7月	88,596	50,779
8月	85,845	44,865	8月	93,024	54,658
9月	68,819	34,112	9月	112,203	64,656
10月	87,731	43,329	10月	61,516	39,481
11月	94,585	47,206	11月	85,435	47,308
12月	88,271	45,909	12月	59,251	34,267
2021年 1月	85,232	42,180	2023年 1月	77,903	41,427
2月	84,718	43,894	2月	76,746	39,516
3月	78,734	41,898	3月	62,890	37,918
4月	76,953	38,345	4月	84,679	48,182
5月	47,058	24,391	5月	66,492	36,064
6月	63,416	34,886	6月	115,725	65,414
7月	78,188	43,982	7月	99,771	55,735
8月	63,956	36,234	8月	91,388	52,240
9月	55,810	32,000			
10月	89,423	48,972			
11月	61,965	35,451			
12月	62,499	35,316			

(資料編)

国(地域)別輸出数量・金額(2022年)(全国)

国(地域)	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
中国	930,650	429,913
米国	869,685	509,537
香港	298,465	202,362
台湾	194,782	112,444
韓国	169,239	75,035
カナダ	116,972	68,108
オーストラリア	98,684	61,466
タイ	96,403	59,097
その他	368,409	252,204
計	3,143,289	1,770,166

国(地域)別輸出数量(2022年)(東京税関管内)

国(地域)	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
米国	575,415	308,756
香港	80,684	53,465
カナダ	70,547	42,361
マレーシア	32,470	21,725
シンガポール	26,155	16,655
オーストラリア	26,061	17,386
インドネシア	24,172	21,258
その他	132,193	77,263
計	967,697	558,869

国(地域)別輸出数量・金額(2022年)(函館税関管内)

国(地域)	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
中国	824,613	346,878
その他	61,589	32,853
計	886,202	379,731

税関別輸出数量・金額(2022年)

税関	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
東京税関	967,697	558,869
函館税関	886,202	379,731
横浜税関	511,592	338,909
神戸税関	431,617	268,118
名古屋税関	180,333	109,187
門司税関	135,183	80,088
その他	30,665	35,264
計	3,143,289	1,770,166

港別輸出数量・金額(2022年)

港	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
東京港	950,601	541,629
苫小牧港	844,793	358,641
横浜港	369,842	241,705
神戸港	321,319	226,220
名古屋港	173,283	104,233
川崎港	135,549	93,416
博多港	131,943	78,762
姫路港	108,238	37,910
その他	107,721	87,650
計	3,143,289	1,770,166

(参考)港別輸出数量・金額(2022年)(米国向け)

港	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
東京港	575,415	308,756
神戸港	128,770	97,023
横浜港	108,476	72,216
川崎港	30,526	17,972
その他	26,498	13,570
計	869,685	509,537

(参考)港別輸出数量・金額(2022年)(中国向け)

港	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
苫小牧港	783,204	325,788
神戸港	63,707	42,120
石狩港	28,107	15,505
姫路港	21,108	7,755
その他	34,524	38,745
計	930,650	429,913



取材協力：全国納豆協同組合連合会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。
東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-6-3 羽田税関支署貨物合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>